

出来事ファイル (No.21-11)

■元町商店街 県民まちなみ緑化事業に参加

元町商店街では毎年、夜市をはじめ季節に応じたイベントで来街者をたのしませてきたが、3密防止の観点から、すべてのイベントが見送られてきた。同商店街では、訪れた方々にささやかな潤いをと、兵庫県から提案のあった「県民まちなみ緑化事業」に参加、全丁で移動可能なプランター55鉢を設置、10月9日(土)11時から6丁目入り口でオープニングセレモニーを開いた。



■三ノ宮周辺地区再整備に3社連携

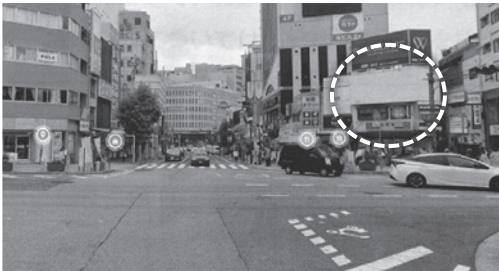
神戸市は三宮周辺地区を対象に、神戸の玄関口にふさわしい「人が主役の居心地のよいまち」を目指し、官民連携のもと再整備をすすめている。このほど神戸市は、西日本旅客鉄道(株)、独立行政法人都市再生機構の3社は、相互連携協力のもと、JR三ノ宮新駅ビル及び三宮周辺地区の再整備を進めていくことに合意、10月5日、協定を締結した。



「三宮クロススクエア」の空間イメージ

■元町駅前にLEDサイネージ

人出の多い交差点などで見かけるようになった映像広告(LEDビジョン)が、JR元町駅前に登場する。鯉川筋と中央幹線道路が交差するJR元町駅前角地で、吉野家などが入る雑居ビル屋上広告面。施主の長田広告(株)関西支店では、広告のほか警察情報など地域の暮らしに役立つ情報を発進、元町界限を利用する人たちに親しんでもらいたい、としている。



□企画展「発掘された明石の歴史展—明石の古道と駅・宿—」

明石は、古代に都と大宰府を結ぶ山陽道が通り、その後西国街道となり多くの旅人が西へ東へと向かいました。今回の展示はその道に関する遺跡からの出土品や文化遺産の資料の展示です。

観覧ご希望の方は、ハガキに住所・氏名・年齢を明記の上、編集部まで。先着順で5名様にはペア招待券をお送りします。

会期：10月30日(土)～12月5日(日)
時間：午前9時30分～午後18時30分(入館は18時まで)
会場：明石市立文化博物館 ☎078-918-5400

須恵器 奈良時代
(古代山陽道 福里地点)

神戸元町商店街 楽市楽座 情報 11月

◇こづまづくり会館ギャラリー(無料) ☎361-4523

11月 4日(木)～11月 9日(火)
第26回森の会展
11月11日(木)～11月16日(火)彩悠会展
11月18日(木)～11月23日(火)
第14回みなと銀行こよう会福友会会会員作品展
11月25日(木)～11月30日(火)
2021彩風会スケッチ展

◇元町映画館(有料) ☎366-2636

10月23日(土)～11月12日(金)
特集「映画で旅する世界」
10月30日(土)～11月 5日(金)
『僕とオトウト』・『Shari』
10月30日(土)～11月12日(金)『HHH：侯孝賢』
11月 6日(土)～11月12日(金)『へんしんっ』
11月 6日(土)～11月19日(金)
『ボクたちはみんな大人になれなかった』
11月13日(土)～11月18日(木)
『灯せ』・『まっばだか』〈アンコール上映〉

11月13日(土)～11月19日(金)『華のスマカ』
11月19日(土)特集「ガチバーン映画祭 三都決戦」
11月13日(土)～11月26日(金)
『(主婦)の学校』・『MONOS 猿と呼ばれし者たち』
11月20日(土)～11月26日(金)
『男の優しさは全部下心なんですって』・『彼女来れ』
11月20日(土)～12月 3日(金)
『カナルタ 螺旋状の夢』
【*時短営業の為、予定は変更になる場合がございます。】

神戸駅東地区クリーン作戦

ハーバーロードから神戸駅までの地域を担当するクリーンチームは、コロナウイルス緊急事態宣言が解除された10月6日(水)、エスタシオン・デ・神戸、ネットヨタ兵庫(株)、あいあいネット神戸チームにより実施した。



エスタシオン・デ・神戸とあいあいネット神戸チーム

ネットヨタ兵庫(株)チーム

編集後記

あづは会令れた。期さなちのる新たさい元たろだ
る。くじ30通た兵庫の心通い栄のうけ
り。り年で神戸の待ったへ融臓りい通町▼でも
「としの軌跡を3本の東海にた変臓機誘能は通
した街を▼の神協メに生しを、と
縁まち戸議イましは、



みなと元町

タウンニュース

TOWN NEWS



発行：みなと元町タウン協議会 住所：〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内 発行人：奈良山喬一 編集人：岩田照彦 電話・FAX：078-391-0831

知床の雄大な自然とそこに生きる人々
そのたたずまいから浮かび上がる「まち」の姿

元町映画館 支配人
林 未来



©2020 吉開菜央 photo by Naoki Ishikawa

『Shari』という映画がある。空を映して真っ青な雪原に、赤いモケモケした生き物が雪にまみれて立っている、そんなポスター。「Shari=シャリ」という音は、氷菓を口に含んだときのような、どこか涼しげな響きをまとって、私はこの雪男のような、イエティのような、ビッグフットのような、UMA(未確認動物)の名前が「Shari」なのだと勝手に思っていた。ところが観てみると、想像のとても及ばない驚きの映画だった。



まず、「Shari」は地名だった。日本最北の世界自然遺産、知床半島の斜里町。希少な野生動物が生態系を育む神秘の地であり、冬にはオホーツク海沿岸に流れ着く流水を見に多くの観光客が訪れる。ところが、2020年冬はいつもと様子がちがっていた。雪が全然降らない。流水もなかなか来ない。地元の人に言わせると「異常な事態」が起きている。そんな状況で撮影を始めることになった吉開菜央監督は、町の人たちの切実な声を聞き、そこで起きているさまざまな変化を感じ取り、すべてを映画にすることにしよう。

この映画に登場するのは、斜里町に暮らす人々。全国を流れ流れてここにたどり着いた、羊飼いのパン屋。庭に棲みつ

いたモモンガを観察する夫婦。東京から移住した鹿猟師。酪農家を引退し、趣味の木彫りが膨大なコレクションとなり自宅が「秘宝館」と呼ばれるおじさん。海の環境を見つめる漁師。子どもたち。それぞれがそれぞれの来し方や思いを語り、カメラはそれを静かに見つめる。

とはいえこれは、「斜里町に暮らす人々のドキュメンタリー映画」ではない。そもそも、それなら謎の“赤いやつ”なんて出てくるはずもない。ダンサー、振付家でもある吉開監督は、「自分自身が斜里を全身で体感し、人と自然、自分と他者、言葉になることならないこと、夢と現実、さまざまな境界線を彷徨い、あらゆる命の渦の一粒として、生きながらつくりあげた」と語る。壮大な自然や動物たち、斜里の人たちから聞く暮らしの中でのユニークなエピソードや土地にまつわる民話、振る舞われて口にした鹿肉の衝撃…吉開監督が見聞きし体験し感じ取ったことすべてが渾然一体となり、ドキュメンタリー／フィクションの枠を軽々と飛び越えていく。他に類を見ない、唯一無二の映画だ。

そしてまた、「まち」の映画としても他にはない魅力を放っている。町についての説明はほとんどされないしスクリーンに映る景色は雄大な自然ばかりで町の形さえはっきりとわからない。ところが、そこに暮らす人たちの語りから、謎の“赤いやつ”と住民のささやかな交流から、子どもたちの姿から、そこにある「まち」が浮かび上がってくる。「まち」の姿形がなく、その存在を描写すること。こんな風に「まち」が見えたことってないんじゃないか。そしてこんな風に「まち」を捉えることを、「まち」に関わる人たちはしたことがない／知らないんじゃないか。

と同時に、人々が抱く町への愛情、“他所者”である吉開監督の中に生まれた斜里への愛情が映画全体の中でどくどくと脈打っていることも強く感じる。なんて素敵な「まち」だろう！この映画を観たらみんな、斜里のことを好きにならずにいらなくなる。「この町の特徴はこう

です」「この町はこんなところが魅力的です」そんなことをひとつも言わなくても、吉開監督が斜里で体感した驚きと感動はそのまま映画に記録／記憶され、私たちの目の前で生々しさを保ったまま再生される。冒頭でも書いた通り、これは本当に「驚きの映画」なのである。

最後に吉開監督のメッセージを紹介して筆を置く。「映画に残すことのできた風景と音が、世界中のみなさまの今に繋がることを願っています」。



海という名の本屋が消えた（96）

平野義昌

元町駅周辺(2) 学校その2

1934(昭和9)年、神戸小学校の校歌が開校50年を記念して誕生した。同校『五十年史』に当時の校長・中山直太の思いが記されている。中山は「訓導者若杉恵(さとし)」に歌詞文案を任せた。若杉は図画の教師だが、彼の文学活動は同僚たちによく知られていた。若杉は文案に半年かけた。

〈……之を校長並に職員とともに練り上げて大体の骨子を得、職員室に掲示して意見を求め、更に一部改修して批評を徴した。〉^{註1}

中山は須磨在住の詩人・福原清(補註1)に修正文案の批評を請う。9月中山上京、東京高等師範学校教授・吉田彌平(1869～1937年、国文学者)、詩人・葛原茲(しげる、1886～1961年、童謡「夕日」「キューピーさん」など)、東京音楽学校教授・片山頼太郎(補註2)に意見を聴いた。

中山は他校の校歌とも比較検討し、「作歌に対する自信」(註1)を得た。続いて若杉が上京し、北原白秋(補註3)ら詩人たちに見てもらった。〈……詩壇の新進諸子に感想を問い、葛原氏の門を叩き、更に市外砧村に北原白秋氏を訪問してリズム音節に於て啓発されるところがあった。よってその点にも考慮を加え、麻布飯倉に島崎藤村氏を訪れた。氏は格調に於て二三の印象を指示せられた。〉^{註1}

若杉自身の上京回想は次回紹介する。『五十年史』は歌詞決定について、専門家諸氏の批評感想はあくまで参考であること、歌詞の添削は校長・教職員によること、初めに決めた精神――活きた校是校訓として永久に伝える、児童の心魂を陶冶し情操を高める――は一貫していること、を強調する。若杉原案や改訂の過程、識者批評やその後の修正細部は不明だ。〈……昭和九年十一月上旬、三節より成れる「神戸小学校校歌」は、莊重雄渾を旨としてその中に華麗を失わぬ格調を希望して、作曲家片山頼太郎氏の手にて委ねられたものである。〉^{註1}

1 百船(ももふね)の つどう港を
みはるかし まなびやたてり
神戸の名 とわにたたえつ
われひとの 仰ぐまなびや
2 承けつぎし 「神」のしろしを
つたへなむ いやつぎつぎに
神ながら みちはひとすぢ
斯の道に われらはたちて
3 あはち島 底つ岩根の
ゆるぎなき 人となりてむ
空映す 大海原の
おほきなる 民となりてぞ
君につかへむ ^{註2}

戦後、最終句は「国につくさん」に改められている。補註4

『五十年史』は「校歌の精神」も解説する。神戸の地にあること、「神戸」の地名由来と「神」の文字を戴くことを誇る。開校以来の歴史を「われひとの 仰ぐまなびや」と表現する。具体的には、「初等教育の淵源」「本邦初等教育発達史の縮図」という評価であり、文部大臣や天皇勅使の視察、成績優良賞と金の栄誉だ。「神ながら みちはひとすぢ 斯の道に われらはたちて」は、皇道精神。明治天皇御製「教育」と「教育勅語」を尊ぶということ。3番では、校舎から海を眺望し、世界に飛躍することを誓う。〈百船を浮べ淡路島をめぐり、洋々として五大洋

に通ずる水である。そのひろきをおのが心とし世界一等国民たるの希望を養おうではないか。或はまたここをわが活動の舞台として君国のために大いに雄飛発展しようではないか。この希望は大日本国民として、将又(引用者註、はたまた)大開港都市民として、神戸市に人となり神戸校に学ぶわれらの前途をして一層光輝あらしめる所以であろう。〉^{註1}

50周年記念式典での校歌合唱の場面。〈……莊重な前弾につれて合唱する我が校歌、或は高く或は低く第一第二歌詞のメロディの繰返しから一変して第三歌詞の別旋律の醸し出す漸層的効果は遺憾なく發揮され、雄渾又華麗、心ゆく迄歌わずには居られない歓喜を感動そのままに表現して意義深い記念式の最後を飾るにふさわしい歌い振りであった。〉^{註1}

1番2番は同じメロディだが、3番は異なる。片山が中山校長に宛てた手紙がある。まず、中山の理想を表現できるよう努力したことを述べる。3番のメロディを変えた理由は、2番からの継続として「変化と且つ自然的な漸層的効果を以て」作曲した、と書く。「校歌作曲の一新面と実に愉悅禁じ難く」と自賛する。また3番は字句が多く、且つ「あはち島」に興味が動き新しい着想を得た、と。全体を莊重・雄渾な表現にし、学校の精神と歌詞を尊重して「万葉的なものを偲びつつ」作曲したことを付け加える。最後に中山の熱意、作詞の若杉と音楽教師の山井(補註5)の加勢に感謝の気持ちを表わしている。註1

私はこのたび初めて同校校歌を知った。僭越ながら、私の感想。1番は港と共に栄える町のわが学校を歌い、校歌らしい校歌だと思う。2番3番、神話や地名で歴史を語り、この海から世界へ羽ばたく、希望溢れる歌詞である。しかし、時代が時代、戦後民主主義社会の人間が読めば皇民教育そのものと言わざるを得ない。戦後世代は歌詞を否定することなく、より良い解釈をして歌ったのだ、と思う。楽譜を読める人に見てもらうと、2番から3番に盛り上がりつつ終わる感じ、だそうだ。メロディは「Web神戸市小学校教育研究会音楽部」で聴くことができる。私は、自分が歌ってきた校歌やスポーツ大会などで耳にする校歌と比べて難しい、と思う。雅や厳肅さを感じるけれども、元気が躍動する歌とは言えない。『五十年史』もこの点に言及している。

〈因にこの校歌は調に於て、或は運動、行進の場合の唱和には適しないかもしれぬが、第二校歌とも謂うべきその調のものは他日別途に之を制定せんと意向によったものである。〉^{註1}

同校の歴史を見てきた者からすれば、それなら前回紹介した開校30年の行進歌があるやんかへ、と言いたい。20年前の歌は忘れられていたようだ。「つたへなむ いやつぎつぎに」とはならず。その後も作られなかった。

1935(昭和10)年11月、この校歌は兵庫県知事から「歌詞楽譜ヲ其ノ校々歌トシテ採用ス」と認められた。註1

補註1 福原清(1901～82年)。24(大正13)年、兵庫県立神戸第二中学校(県立兵庫高校の前身)の後輩・竹中郁と海港詩人倶楽部を結成。

補註2 片山頼太郎(1894～1975年)。28(昭和3)から51(昭和26)年まで音楽学校在職。29(昭和4)年から36(昭和11)年まで文部省唱歌編纂員。

補註3 北原白秋(1885～1942年)、詩人・歌人。童謡、歌謡、民謡も作詞。作曲家・山田耕筰と共に多くの名曲を

世に出した。神戸校校歌批評の前年には二人で関西学院校歌「空の翼」を手がけている。

補註4 歌詞改訂 『神戸校九十年 神戸小学校九十年記念文集』(神戸小学校同窓会編・発行、1974年)より。戦後疎開先から徐々に児童たちが戻って来た。3年生の松下さんは46(昭和21)年夏休みに帰神したが、米軍が神戸校を接収したため、諏訪山小学校で授業を受けた。48(昭和23)年秋に接収解除され、運動会で生徒も父兄も歓声をあげ、戦後初めて校歌を合唱、大いに感動した、と綴る。また、54(昭和29)年12月の開校70周年時、木村教諭が「若杉慧先生を東京へお尋ねして、一部歌詞を新しくしていただきました」と書いているので、改訂はこの時のことと思われる。同年秋の運動会では5年生女子作詞「運動会の歌」が作られた(作曲者不明)。64(昭和39)年の開校80周年に際して校歌改訂の動きがあり、若杉に許可を得たが、実現しなかった。

補註5 山井基文 姓の読みは「やまのい」。90年文集に、複数の卒業生が「山ノ井先生」と書いている。上品、美男子、ちょび髭、優しい、の印象が並ぶ。1919(大正8)年東京音楽学校ピアノ科を卒業してすぐ神戸校に赴任し、43(昭和18)年3月まで勤めた。学校としても山井の存在を「大変誇りにしていた様子」だった。文部省「唱歌」だけではなく、西洋の名曲・新曲を選び、印刷して歌曲集を作製し、授業をした。休み時間にピアノ指導をして、音楽の道に進んだ生徒もいる。当時6年生の国語教科書にベートーベン「月光の曲」のエピソード―散歩中にピアノを愛好する盲目の少女に遭遇、彼女のために即興で作曲―が掲載されていて、毎年ここを習う時期になると山井の奏でる「月光の曲」が校内に流れた。

ピアノの話を追加する。資料を見落としていた。22(大正11)～23(大正12)年にかけて第5代校長・芥川梅次郎が欧米の教育事情を視察。その際ドイツ・ハンブルグで新しくピアノを購入した。三菱の現地社員(商事か銀行か?)から「グランドピアノの中位のものが千円ほどで買える、との情報あり。日本で買うと2.5～3倍の値段。鈴木商店ロンドン支店長に相談して、お金を融通してもらった。日本郵船が神戸まで輸送。帰国後、芥川は公的な視察報告会とは別に父兄を招待して、おみやげを披露。幻灯機映写、蓄音機とレコード鑑賞、そして山井が新ピアノを演奏した。新ピアノは講堂に設置された。敗戦後、米軍が同校を接収した際、新ピアノは行方不明になった。京都の兵舎に移されたいし。たびたび返還を陳情したが、回答なし。戦争に負けるとはこういうことだ。どこかのキャバレーだかバーにあるらしい、との噂もあった。54(昭和29)年開校70周年に講堂用のフルコンサートピアノが新調された。

註1 開校五十周年記念式典会編・発行『神戸小学校五十年史』1935年

註2 開校100周年記念事業実行委員会編、神戸市立神戸小学校発行『神戸小学校100周年記念誌』1984年



写真 片山直筆「神戸小学校校歌」(上掲『100周年記念誌』)引用文は適宜新字・新仮名遣いに改めた。

みなとMOIOMACHケンチクさんぽ vol.4 公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部 兵庫地域会 地域まちづくり委員会

みなとを彩る建築

今年8月に「神戸市都市景観形成基本計画」が40年ぶりに改訂されました。新たに「都心ウォーターフロントの景観形成方針」が示され、港の景観が神戸らしさを象徴する大きな要素として位置付けられました。今回は、神戸の代表的な景観である、メリケンパーク周辺のウォーターフロントを「さんぽ」しました。

元町駅から、繁華街を10分も歩けば海岸通に出ます。大正時代に現在の水上警察署付近が埋め立てられるまで、その名の通り海に面した通りでした。その後も至る所で埋め立てが進み、それまで身近にあった海が着々と遠くなりましたが、今でもこの辺りが市街地と海が最も近接している所です。

西へ進むと、**神戸ポートタワー**(1963年)：が見えてきます。名古屋テレビ塔(1954年)や東京タワー(1954年)の様な電波塔としての役割を持たない、観光用のタワーとして建てられました。円筒を捻る様に鋼管を組んだ優美な鼓型のフォルムになっています。それ



(1)



(2)



(3)

(1)神戸ポートタワー、神戸海洋博物館、ホテルオークラ神戸が建ち並ぶ代表的な神戸の景観
(2)メリケンパークオリエンタルホテルに横付けする大型帆船
(3)海に面した「BE KOBE」のモニュメント
(4)1987年メリケンパーク計画時の神戸市港湾局発行パンフレット ※(1)(2)(3)2021年9月筆者撮影

そして、海に突き出して建つのが、**メリケンパークオリエンタルホテル**(1995年)：中突堤の先端いっぱい建てられ、停泊する船と直接出入りができる構造になっています。外観は波を象ったデザインで、連続するバルコニーは客船のイメージです。芦屋浜に建つ、芦屋ベイコート倶楽部(2018年)は豪華客船の姿そのものです。神戸ポートピアホテル本館(1981年)も船をイメージしたとされ、このように海辺に建つホテルの多くに、船をイメージしたものがあります。有名なところでは、横浜みなとみらいのヨコハマインターナショナルコンチネンタルホテル(1991年)や、ドバイのブルジュ・アル・アラブ(1999年)もそうです。しかし、実際の大型船がホテルに横付けしている景観が見られるのはここだけです。

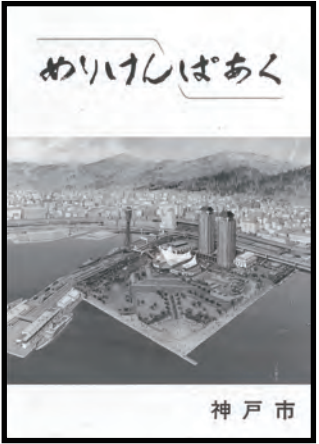
最後に、**メリケンパーク**(1987年)：にも触れておきたいと思います。メリケン波止場と

は、狭い突堤に建てた高さ108mのタワーの最上部に、出来るだけ広い展望フロア設ける為の合理的なデザインでもあります。ちなみに、京都タワー(1964年)は高さ規制の関係から電波塔として建てられました。原案では京都らしく頂部は相輪に似せたデザインでしたが、電波塔とした手前、アンテナが設置出来る様、単純な四角柱となりました。

神戸ポートタワーは「鉄塔の美女」と呼ばれる事がありますが、色々なタワーと見比べても、赤くて小ぶりのその姿にととても愛着を感じます。王冠のような「PORT OF KOBE」の文字や、その上に掲げられる旗が何とも愛らしく「鉄塔のお姫様」という感じです。

すぐ隣は、**神戸海洋博物館**(1987年)：船の帆と大海原の波をイメージしたという、目立つ鉄骨フレームは屋根の役割をしているわけではなく、その下の建物に乗る飾りです。船の帆や海に向かって開かれた印象などは、シドニーのオペラハウス(1973年)とアイデアの源泉が近いのではないのでしょうか。細い鋼管でフレームを構成したところや、それを対比的に白色としたところなど、神戸ポート

タワーとの調和に配慮した事がうかがわれます。次に、神戸ポートタワーを超える高さ135mの、**ホテルオークラ神戸**(1989年)：当初はツインタワーとする計画が、バブル経済崩壊のあおりを受け、1棟のみとなったそうす。現状の低層部からも、もう1棟建てる計画があった事の名残が見られます。関空の対岸りんくうタウンに建つ、りんくうゲートタワービル(1996年)も原設計時は、名前の通りゲートを模したツインタワーでしたが、既に着工時には1棟のみの計画に変更されていたそうです。関西の玄関に建つランドマークとして、モチーフにした一對の門柱のうち片方だけをそのまま建てず、デザインし直す余裕は無かったのでしょうか。一方、ホテルオークラ神戸は、ツインタワーでないだめというデザインにはなっていないので、神戸ポートタワーに迫る様にもう1棟建てるより、今のままで結果的には良かったと思います。客室なりに設けられたバルコニーや上階ラウンジ部分のシンプルなガラス壁面、必要に応じて作られた様の塔屋部分など、おとなしく上品に見えます。



(4)

感じさせられていたメリケンパークが、空間としてまとまった気がします。デザインや設置場所、そしてスケール感もちょうど良いと思いますが、何よりKOBЕの持つブランド力を再認識しました。

前述の「神戸市都市景観形成基本計画」では、海上からの町の見え方についても示されています。海に開き、海から人を迎え入れてきた神戸の生い立ちを大切にする考え方だと思います。改めて、港町としての魅力づくりに想いが膨らみます。

()内は、開業年



久保田 淳司 (くぼた じゅんじ)
ディーオーケーブランニング
神戸 L A B 代表
／一級建築士
／インテリアコーディネーター